

# 新型コロナウイルスによって加速する働き方の変化

～働き方改革の新しいフェーズ～

国際商経学部

○教授 みさきひでお  
三崎秀央

キーワード

新型コロナウイルス, テレワーク, WLB

## 研究概要

新型コロナウイルスによって、世界経済は大きな影響を受けた。しかし、ワクチンの接種等によって、中国、アメリカ、欧州の一部では回復の兆しが見えている。これに対して、日本はコロナ対応が遅れ、経済回復が遅れている。2021年に発表された企業業績は回復している企業と落ち込む企業に二極化し、いわゆる K 型の状況となっている。兵庫県全体でみると、製造業が盛んであるということもあり、コロナ禍のダメージは比較的小さかったが、回復が遅れが生じている。また、関西圏の企業は、テレワーク等の対応もうまくいっていない状況がある。

このような中、東京一極集中の見直しや働き方の変化など、日本でも社会構造の大きな変化が生じている。そして、この動きはデジタル化によって加速している。地域の企業はこれらの変化に対応していくことが求められている。

本報告では、各種データと報告者が実施した調査・分析に基づいて、地域の企業にとってデジタル化と WLB への対応が必要であることを示す。その際にポイントとなるのは、単純な労働時間の削減、あるいは労働時間管理に重点を置いた働き方改革ではなく、生活の質に注目したアプローチを採用することや、組織全体の公正さを担保する人事制度の改革に着手することが必要となることを示した。

## アピールポイント

コロナ禍による影響は、地域の経済に大きなダメージを与えている。しかし、地域の企業にとっては、少なからずチャンスとなりうる社会構造の変化がみられる。このような変化の波に乗るためには、テレワーク等のデジタル化の推進と WLB への対応が求められる。

従来の WLB の議論は、主に労働時間管理という観点から進められてきたが、本研究では、ワークとライフの相乗効果や、人事労務管理全体の問題として捉えることが、従業員の納得性の高い WLB 施策となることを示している。